

コロナ禍における異学年間の交流を

今までは教室を行き来して図っていた交流をテレビ会議システムを活用して実施。伝える側は伝える内容・分かりやすく伝える方法を考え、経験を元に後輩へアドバイスをおくる。受け取る側は、自分たちの疑問や課題を解決するアドバイスを先輩から受けて、自分たち課題解決に向けて取り組むことができる。後輩からの質問や承認は自分たちへの取組に対する肯定感へとつながり、どちらの学年にとっても良い効果を生むことができる。

コロナ禍で今年は…と諦めることが多い中、ICTを使うことで場所や形を変え、効果的な交流を続けていくことができる。

< 1・2・3年 基礎看護 >

ICT活用のポイント

校内でのテレビ会議システムは準備が大変そうといわれるが、特別なものを準備しなくても各教室へタブレットを準備すれば話をするレベルであれば十分可能です。

しかし、電波の悪い所では音声がかぎれるため事前に環境のチェックをおすすめします。

プロジェクターから音声を出す場合には受信側のマイクオフを忘れないようにする。



3年生の実践発表を2年生へ配信



2年生から1年生へプレゼンの様子

実習におけるICTの活用

校内実習において技術力を高めていくためには、自分の技術を振り返る中で課題を発見し、その解決に向けて練習を積み重ねていくことが必要である。看護技術においては、自分の身体の使い方だけでなく対象の動き方なども配慮事項となっていくことから、そこへICTを活用して動画撮影を実施して振り返りの作業や自己評価へつなげる。

高校生という発達段階において客観的に自分自身を見ることが苦手な生徒もあり、教員の指導時間も多くかかっていたが、動画をみることによって客観的な評価がしやすくその力を身につけることができる。

また、中止となった校外実習の代替の中でよりリアルな現場再現のため、教員の共同編集としてカルテを作成した。生徒へTeamsをとおして共有ファイルとし、より現場に近い形を校内で実現させることができた。

ICT活用のポイント

グループに一台のタブレットを配布する。技術を撮影するためどこを撮ったら効果的に振り返りできるか事前に指導しておく(何を撮影したら良いのかを伝えておくことで見る時の恥ずかしさの軽減にもつながる)

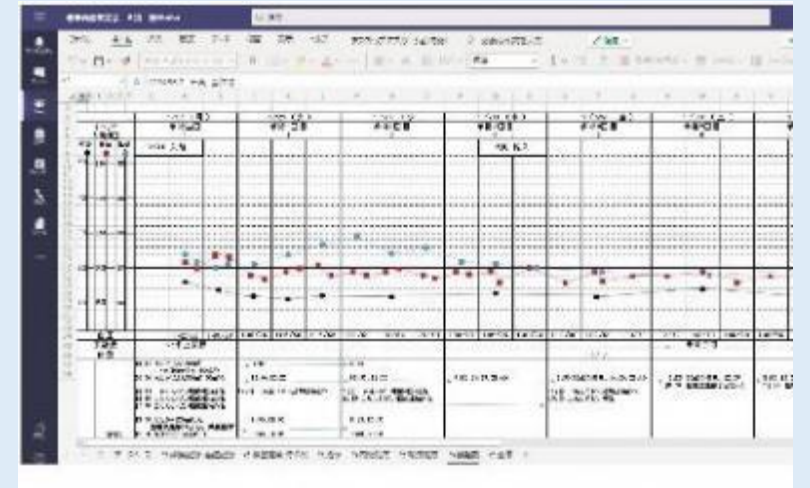
グループの振り返りだけでなく、クラス全体に向けての振り返りに活用することもできる。

<高校2年 校内実習>



校内演習の様子

<専攻科1年>



実際に作成したTeams内のデータ